



2017年6月21日

報道機関各位

**「世界幼児教育・保育機構」総会(クロアチア) で発表
放射能汚染でこどもが自然を怖がる現象「自然剥奪症候群」について**

報道関係者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より本学院の教育へご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

これまで尚絅学院大学附属幼稚園を中心とした尚絅学院大学放射線研究チームでは放射能汚染による幼稚園保育園の深刻な保育制限に関する研究を進め、東京電力福島第一原子力発電所の過酷事故から起こされた放射能汚染で福島県を中心とする多くの幼児教育施設が閉鎖され、再開しても大幅な保育活動制限を受けているという研究報告をしてきました。特に注目されるのが自然に触れることを禁止された子どもたちが、虫を怖がる、土に触れたがらない、外遊びをしない、肥満が進行するなどが観察され、事故後6年に至るも、未だに残る野外活動の制限は子どもたちの心身の発育に大きな陰を落としております。(※下記、写真を参照)

この度、チェルノブイリ事故によって同じ放射能汚染を経験したヨーロッパの地で開催される「第69回世界幼児教育・保育機構(OMEP)総会」にて、日本が経験している深刻な放射能汚染の実情を伝えるため、現場保育者を含めて一行6人が同内容の発表を行います。

報道関係の皆様におかれましては、本研究活動については是非報道していただきたくお願いいたします。

記

行事名：第69回世界幼児教育・保育機構(OMEP)総会

日時：2017年6月21～24日

会場：クロアチア オパティア

内容：2つ演題を尚絅学院大学放射線研究班とキリスト教保育連盟東北部会の共同発表



(左写真) クローバに触ってはいけないので手を引っ込めて見ている園児たち。

(右写真) 子どもが虫に触れずただ指差しをするだけ。周りの子どもたちも手を縮こませて触らないようにしている。

<本件問合せ先>

所属：尚絅学院大学名誉教授 尚絅放射線研究班代表

氏名：岩倉 政城

TEL：080-6002-8243

Email：rock-iwakura@shokei.ac.jp